

ゴルフの旅人

クラブを持てば世界は友だち

第12回

取材協力/アイルランド政府観光庁

アイルランド・東海岸 編

考えるゴルファーだけが「リンクスの不条理」を克服できる

Nishimura Kunihiko

1947年生まれ。東京大学卒。弁護士。プレーヤーの立場からゴルフ場再生に取り組んでいる。04年ニューゼントアンドリュースGCジャパンのクラブチャンピオンに。現在はHC 3

ケ

ルト(注1)の国アイルランドはゴルフの原点といわれるリンクスの宝庫。バリーパニオンをはじめ、素晴らしいリンクスコースが星のごとく点在しているところで、リンクスって何だろう。本物のリンクスコース(注2)は、真のリンクスランドにしかない。強く吹き付ける海風が砂山(DUNES)を作り上げ、そこが海と陸をLINKさせたところにしかリンクスはありえない。そうすると、リンクスコースの大半はスコットランドとアイルランドに集中することになる。



11番パー4沖の海上に設置された風力発電。ここは風の通り道なのだ



クラブのロゴになっているドルメン。強いて言うと、アイルランドに点在する古墳



このクラブの設計者でオーナーの元ゴルフジャーナリスト、ルデイはオモロイ男



世界のベスト500ホールにノミネートされた14番パー3。サラゼンに捧げられた



10番にある呪いの石。負けてる時呪いかけてると逆転できるかも。でもかけすぎは危険

きつい砂山が合理性を拒む。だからアイルランドの古いリンクスはストーンクラブレー向きではない。ところがリンクスを愛するが故に、そんなアイルランドのリンクスに新しい風を吹き込んだ男がいた。パツ

ンクラブという18ホールのリンクスコースをオープンしてしまった。真のリンクスでありながら、プレーヤーの実力に応じて楽しめ、しかもトッププロのトーナメント開催も可能なコースを、だ。

去年から100億円近い金額で再三このゴルフ場を売って欲しいというオファーがきていると言うが、本人は「クラブハウス内に自宅を造って、18番にゴルフアがaggって来るまで、18番フェアウェイに自宅からボールを打つつもり」だそうだ。子供たちもゴルフ場の仕事を手伝っているの、ここは名実ともにルデイ家のゴルフ場なのだ。



12番フェアウェイ中央のバンカー。バンカーの壁は皆枕木で補強されている

このゴルフ場でラウンド後、パットの話を聞くことができた。彼いわく、「ユーロピアンでは、考えるゴルファーにはリンクスの不条理を免れるヒントがあちこちに見つけられるようにしてあるんだ」それを読み取りながらショットメイクをしてほしいのだ」と言う。

バンカーに向かって転がって行くボールがバンカー近くで反転してグリーンに向かっていくのは、リンクスゴルファー冥利に尽きるという、ニヤツと笑ってワインクでもすかさず、「今度来たらまた少し変わっているかもしれないからね」とくる。12番の幅が127ヤードあるグリーンで色々なパッティングをしてみたといったら、「そうなんだ。タイ

ト・ルデイ61歳、元ゴルフジャーナリストだ。この男、ヘリコプターで理想のリンクスを探しているうちに、首都ダブリンの南50kmの温暖な海辺に最適なリンクスランドを見つけた。そして92年その地にジ・ユーロピ

という、ニヤツと笑ってワインクでもすかさず、「今度来たらまた少し変わっているかもしれないからね」とくる。12番の幅が127ヤードあるグリーンで色々なパッティングをしてみたといったら、「そうなんだ。タイ



注釈:①紀元前5から1世紀ころ欧州で栄えた民族。その後今のアイルランドやウェールズに追われるが、ヨーロッパのルーツとも言える民族②真のリンクスは世界に約150コース、そのうちアイルランドに53コースあるという。キーワードは、海、雨と風、砂山、深いバンカーとラフ、硬くて変化のあるフェアウェイとグリーン③1951年北アイルランドのロイヤル・ポーターラッシュ、ダンルースコース(ハリー・コルトの傑作)で開催された。14番パー3のカラミティでホビー・ロックが涙を飲んだ④2002年、タイガーやオメーラもやってきた。ルデイはR&Aから全英開催の声がかかるのを待っているとも言われる。